

バックヤードで藝大 138 年の歴史と美をめぐる
東京藝術大学大学美術館に「魅せる収蔵庫」がオープン！



2024年、東京藝術大学大学美術館に取手収蔵棟が竣工しました。通常、収蔵庫は作品の保存に特化した施設ですが、取手収蔵棟では収蔵品の保管と公開の機能を兼ね備えた「魅せる収蔵庫」を新たに設置いたしました。2025年4月より藝大美術館の教員・スタッフによるガイドツアー形式で、「魅せる収蔵庫」の一般公開を行います。新たな収蔵庫のオープンを契機として、藝大コレクションの魅力とともに、作品を後世へ守り伝える取り組みを広く発信しながら、地域に開かれた美術館を目指します。多くの方にご来館いただけますよう、広報・報道機関の皆様にはぜひご周知・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日時

2025年4月15日（火）より毎週火曜日（祝日は休館）※予約制（ツアーは1日2回開催）

「予約受付フォーム」から手続きをしてください。

① 13:00 - 13:45 ② 15:00 - 15:45

場所 | 東京藝術大学取手キャンパス 大学美術館取手収蔵棟（茨城県取手市小文間5000）

取手駅東口より大利根交通バスで約15分、「東京藝術大学」または「東京芸大前」下車

入館料 | 無料

予約受付フォーム URL

<https://docs.google.com/forms/d/1sfMrq4MI7xw5UUeE7L3t1t1MybtmIC-G4Y3UHeXeww/edit>



予約受付フォーム QR コード

■ 取手収蔵棟について

藝大美術館取手館開館から30年を迎えた2024年、取手キャンパスにおける芸術資料の収蔵量不足を解消し、作品の保存・収集を継続するため、取手収蔵棟が新たに建設されました。藝大コレクション約30,000件のうち、取手館および取手収蔵棟には約13,000件の作品が保管されており、大学買い上げとなった学生たちの卒業・修了制作を今後も収蔵し続けます。

隣接する取手館とは渡り廊下で繋がっており、地上3階建てのすべての階に収蔵庫が設けられています。2階収蔵庫前室はコレクションが見学できる「魅せる収蔵庫」としました。取手収蔵棟の開設を契機として所蔵作品の公開と活用を促進し、地域連携や芸術の振興を推進します。

■ 「魅せる収蔵庫」のみどころ

1. 普段は入ることのできない「収蔵庫」での作品鑑賞体験

美術館のバックヤードである収蔵庫では、展示室でのすがたとは異なるかたちで作品たちが保管されています。絵画はメッシュラックにかかっていたり、彫刻は木枠に入っていたり、あるいは壁に固定されていたりと、その管理方法は様々です。「魅せる収蔵庫」では壁面の各所に窓を設けており、そこからコレクションの多様な保管形態を見学することが可能です。

2. 東京藝術大学138年にわたる多様な表現を一望

藝大美術館取手館および取手収蔵棟では、大学が買い上げた学生の卒業・修了制作品を約8,000件収蔵しています。今回は日本画、油画、彫刻、工芸、デザイン、建築、先端芸術表現といった様々な学科・専攻から作品を選び、「魅せる収蔵庫」に配架しました。収蔵庫という特別な環境の中で、本学における表現の多様性に触れることができます。

3. 東京藝術大学伝統の自画像を収蔵展示

東京藝術大学では、卒業制作で描かれた学生たちの自画像を大学が買い上げる伝統があります。自画像の買い上げは明治31年（1898）に本学の前身である東京美術学校の西洋画科からはじまり、明治36年（1903）からは同科全員の自画像を買い上げるようになりました。現在も学生たちは大学4年間の集大成として、自画像と卒業制作の2作品を制作しています。

（※）今回は取手に収蔵されている明治期の自画像の中から13点を配架しました。

（※）日本画科（日本画専攻）の自画像収集は、昭和51年（1976）以降。彫刻科の自画像収集は、昭和62年（1987）以降。工芸科の自画像収集は、平成9年（1997）以降（但し、令和2年度入学者分まで）。

4. 藝大美術館の教員・スタッフによるガイドツアーで巡る

「魅せる収蔵庫」へは、藝大美術館の教員・スタッフが皆様をご案内いたします。ガイドツアーは、1994年に六角鬼丈（1941～2019）が設計した取手館エントランスからはじまります。「ウォールミュージアム」として構想された取手館には、竣工時の教員らによる作品が内外の壁や床、さらには扉の把手に至る各所に組み込まれています。取手館（六角鬼丈設計）から橋渡しされた取手収蔵棟（ヨコモジマコト設計）の建築空間も体感していただきつつ、藝大138年の歴史と美が詰まった「魅せる収蔵庫」での特別な鑑賞体験をお楽しみください。

■ 館長からのコメント

取手キャンパスにある大学美術館には、大学で学んだ成果の集大成である卒業・修了制作が約8,000件保管され、1953年以後は、買上制度によって収蔵された各科の優秀な成績をとった力作ばかりです。それにもかかわらず大半は公開される機会がほとんどないことが長年の懸案事項でしたが、このたび一部を観覧出来る「魅せる収蔵庫」が完成し、見学が出来るようになりました。ぜひ収蔵庫をのぞきにいらして、お気に入りの作品をみつけてください。



東京藝術大学大学美術館館長
黒川廣子

■ 現在、「魅せる収蔵庫」で見学できる作品

※年一回程度、作品替えを行う予定です。

秋元麻由美《Composition of mine》/ 東弘一郎《人間エンジン》/ 安部定《遙》/ 天本恵子《ヤギと赤い月》/ 内野猛《自画像》/ 大沢昌助《姉妹》/ 大八木一郎《自画像》/ 菅実花《Untitled 06 -「あなたを離さない」より》/ 郡司卯之助《自画像》/ 小西正太郎《自画像》/ 近藤隆定《禿鶴》/ 齋藤芽生《花輪 其の六・名前の無い街ー立体交差》/ 三田尚弘《やぎょう 狐 III》/ 塩見競《自画像》/ 白滝幾之助《冬の浜辺》/ 中井川正道《場の転換から空間意識への展開》/ 長塚広造《閃きて》/ 新納忠之介《渡海達磨像》/ 仁王浩一郎《供養 舍利塔》/ 西伊三次《自画像》/ 萩生田文太郎《自画像》/ 橋本和幸《時空の顕在化》/ 長谷川昇《海辺》/ 八条弥吉《自画像》/ 林良三《森のエピソード》/ 深見和成《自画像》/ 藤井隆之《吹染蓮図大皿》/ 松平栄之助《悠想》/ マリー・イーストレーキ《自画像》/ 三井由太郎《自画像》/ 箕輪茉海《Vital Sign 息づくもの》/ 牟禮まり子《お母さんの名前》/ 森岡柳蔵《自画像》/ 森田亀之助《自画像》/ 森田太三郎《鳩豆壳》/ 保井智貴《「untitled」》/ 矢野佑貴《たらちね》/ 山田彩加《命の繋がり》/ 和田英作《春雨》
(※作家名 50 音順)

■ 広報写真一覧

取手収蔵棟外観



魅せる収蔵庫内の様子



■ 内覧会のご案内

日時：2025年4月8日（火）①13：00－13：45 ②15：00－15：45

報道関係者向けの内覧会を開催します。各回先着15名までとなります。参加希望の方は下記問い合わせ先まで代表者氏名、参加人数、媒体名をご連絡ください。

■ お問い合わせ

お問い合わせ、内覧会、画像借用のお申し込みは下記までお願いいたします。

E-Mail: am_toride@ml.geidai.ac.jp